

株式会社 藪半

- 物件名：株式会社 藪半
- 住所：稲穂2-19-14
- 電話：33-1212
- 所有者：株式会社 藪半
- 運営者：代表取締役 小川原 格
- 主任と人員：女将 小川原ひとみ 若女将
若女将 小川原明香、19人

■建物履歴

- 昭和29年 小川原昇（あきら）が、小樽駅前国道5号線角で蕎麦屋・藪半開業
- 昭和45年 隣家からの火災で全焼、再建
- 昭和48年 小樽市駅前再開発事業で、静屋通りの現在地で廃業していた割烹「日乃出」跡を購入、再生
- 昭和59年 小川原格が株式会社藪半代表取締役就任
- 昭和61年 藪半全焼、旧金澤友次郎（伍楽園）邸の内部部材移築し、残った蔵とともに再建



外観

※石蔵

明治42年に祝津鯉場親方御三家の一人白鳥家の別邸（旧キャバレー現代・藪半石蔵）として創建。二代目白鳥永作は1918（大正7）年の北海道内における多額納税者として「11位の8,614円」を納める

※金澤友次郎

明治37年 石川県出身の函館在住の回船業者で、その自邸として建設。同年金澤植物園を開園し、翌38年園内に小樽花壇ビーヤホールを開業したが、39年植物園火災により売却。自邸は横浜の貿易会社に売却され、その後犬上汽船社長の犬上慶五郎が購入し、大正8年に隣家の奥山富作が購入、昭和13年に北の誉一族の岡田与作吉に渡る。小樽商人の濃厚な系譜がうかがえる建物。

■内観

- ①蔵座敷／祝津鯉場親方御三家の一人白鳥家が明治42年に建てた別邸の石蔵。
- ②帳場／旧金澤友次郎邸母屋濡縁側に掛けられていた樹齢80年以上の杉丸田の小屋組。
- ③玄関前庭／旧金澤友次郎邸玄関前庭に使用していた敷石で、福井県産の青石。また御影石と那智黒の玉石も移設。屋根の瓦を小端立てとして再利用。
- ④二階座敷／旧金澤友次郎母屋の八畳間の座敷飾りを復元。竹床柱と平書院のある座敷飾、彫刻欄間、杉柱目と赤色天井材を交互に対比させた棹縁天井。
- ⑤二階吹き抜けの間／旧金澤友次郎母屋六畳仏間に使用していた天井を復元、皮付丸田の格縁に市松張天井。

■内容

- ①部材の再利用／藪半の歴史的建造物再利用は、従来の建物ではなく、解体される歴史的建造物の部材を新築に移築したことで画期的。
- ②メニューへのこだわり／和風の館内でクラシックのBGMを流し、「蕎麦屋で一杯」として肴メニューを充実、さらに「カレー蕎麦」「群来蕎麦」など独自のメニュー開発にも余念がない。

■コンセプト

- ①スタッフの対応・他者や他店に「藪半のスタッフを見習え」といわれるほど、スタッフの明朗な対応は評判。
- ②小川原節・宴会席には必ずお礼の挨拶に参上するが、小樽運河保存運動の仕掛親父として独特の小川原節で、宴席も潤う。

■客層

昼時は並ぶほどの大人気。地元客の千客万来に引かれて観光客も多数来店。一番人気は石蔵席。



アプローチ福井県産の青石。御影石と那智黒の玉石



石蔵2階の漆喰壁と障子



樹齢80年以上の杉丸田の小屋組

株式会社 藪半



石蔵2階の堅牢な梁



2階座敷



移築された庇をうまく馴染む



まさに一幅の絵



せいろも蕎麦屋風情のインテリア



石壁・漆喰壁・腰板の三拍子



吹き抜けの間では日差しが演出



石蔵への扉



竹床柱と平書院のある座敷飾



皮付丸田の格縁に市松張天井



彫刻欄間